

# 農薬豆知識【農薬のお話】

## 《畑作除草剤の効果的な使い方について》

除草剤の効果を安定させることは良いスタートにつながりますので、今回は畑作除草剤の効果をより安定させる話題です。

Q1: 土壤水分が高めの時にロータリーを掛けたので、細かく砕土出来なかったが？

A: 土壤処理剤は、土壤の砕土・鎮圧を丁寧に行うことで効果を安定させます。ゴロ土状態であると均一な処理層にならないことから、効果が不安定になります。また、馬鈴薯の場合は砕土を丁寧にするによって疫病菌の遊走子を泳ぎにくくし、塊茎腐敗を少なくするメリットもあります。

Q2: 散布時の最適な土壤水分は？

A: 土壤処理剤は水の力を借りて処理層を形成します。土を握り、手を開くと割れ目が入る程度が最適です。茎葉処理剤は雑草に接触させて効果を発揮しますので、土壤処理剤ほどは土壤水分の影響は受けませんが、干ばつ状態が続くと雑草の活動が弱まり除草剤の取り込み量も減りますので、結果として効果不足になる場合があります。使用時期が調整出来る場合は、天気予報で降雨時期を確認してベストな条件で散布しましょう。

Q3: 処理後の温度の影響は？

A: 土壤処理剤はそれほど影響を受けませんが、小豆等で使用されているピンサイドの有効成分の一つ「クロロPC」は高温で蒸散してしまう傾向がありますので、散布後高温が続くとタデ等への効きが悪くなります。茎葉処理剤は一般的に温度が高い方が活性も上がる傾向ですが、特に光合成阻害剤の場合は曇天が続くと効果が悪くなる可能性があります。光合成阻害剤の例: ベタナール、ハーブラック、レナシル(レナパックの成分)、センコル、ロロックス、ゲザプリム、ゲザガード等。

Q4: 土壤処理剤の注意点等がありますか？

A: 残効が長い除草剤でも中耕(カルチ)が入ると処理層が壊れます。栽培上必要な場合は仕方ありませんが、栽培条件によってはてんさい・大豆畑に中耕を入れない方が除草効果や病気面で良かったという話もあります。砂土系や有機物の少ない土壤では、散布後の降雨によって薬剤の縦浸透が大きく薬害の危険性が高まりますので、降雨予想の確認はもちろん、土壤条件に応じて使用量を少なめにするなどの注意が必要です。

Q5: 茎葉処理剤の注意点等は？

A: 朝つゆ・降雨後など、雑草がぬれていると薬剤が

薄まり効果が悪くなることがあるので注意します。また、土壤処理剤の登録がある作物の場合、茎葉処理剤は補完的に使用する考えの方が無難です。同時処理の知見も色々ありますので、発生草種や散布条件に合わせて選択しましょう。  
(そあらー)

### 除草剤の同時処理事例 I

**てんさい**

ベタナール 400ml + ハーブラック 200~300g + レナテン 100ml	ベタナール 400ml + レナパック 150~200g + レナテン 150~200ml
--	---

雑草発生揃い期処理が有効  
タデ・イヌビユ・タニシバ対策  
薬害リスクが低い

土壤が過湿の場合におすすめ  
タデ・イヌビユ・タニシバへは  
小さいうちに散布

### 除草剤の同時処理事例 II

**小麦** (秋まき小麦の春処理)

MCPソーダ塩 300g  
+

エコバート 50 ml 低コスト ※葉抽出前まで乳剤との混用不可	ノアモニー 3~5g イヌカミツレ・ギンギシ 特効薬 ※シバ発生後 スズメ・タニシバは10gに近づくと効果	バサグラン 150ml 春小麦でも使用可 ※適時効果
--	--	----------------------------------

### 除草剤の同時処理事例 III

**大豆**

ロロックス 150g + ラツソー 200ml

フルミオ 5~10g + { ラツソー 200ml  
デュアール 200ml

【参考】混合剤もあります

エコトップ乳剤 (ロロックス+フィールドスター)  
コダール水和剤 (ゲザガード+デュアール)  
ピンサイド乳剤 (ゲザガード+クロロPC)

(2011年5月)